

別冊：参考資料「日本語教育実態調査」結果（概要版）

調査の概要

◆調査の趣旨

当地域の日本語教育の一層の向上を図るため、当地域における日本語教育の実態や外国人県民のニーズを的確に把握し、「愛知県地域日本語教育の推進に関する基本的な方針」策定のための基礎資料とする。

対象者	調査数	回答数	回収率
市町村	54	54	100.0%
国際交流協会	34	34	100.0%
日本語教室（成人向け）	119	81	68.1%
日本語教育機関	25	22	88.0%
日本語教師養成機関	11	8	72.7%
企業	100	31	31.0%
実態調査合計	343	230	67.1%
県内在住外国人ニーズ調査	—	408	—

調査期間：2021年10月4日～2021年11月7日

市町村

◆日本語教育関連事業

日本語教育に関連する事業（大人の外国人県民向け）がある市町村は30団体（55.6%）となっている。

◆日本語教室への支援（複数回答）

「助成金や補助金の交付」が27件、「会場の無償提供や割引制度の実施」が23件、「日本語教室ボランティア養成講座（初心者向け）の実施」が11件となっている。

国際交流協会

◆日本語教育関連事業

日本語教育に関連する事業（大人の外国人県民向け）を実施している国際交流協会は30団体（88.2%）となっている。

◆国際交流協会の役割（複数回答）

「日本語教室の設置・運営（直営・委託）」が25件、「学習者からの相談窓口」が20件、「市町村内外の有益な情報やリソースの提供」が17件となっている。

日本語教室

◆日本語教室の実施主体

「自治体」が16件、「国際交流協会（法人格あり）」14件、「国際交流協会（法人格なし）」が17件、「民間国際交流団体・ボランティアグループ（法人格なし）」が22件となっている。

◆国籍別学習者数（学習者合計：2,304人）

「ベトナム」が476人と最も多く、次いで「ブラジル」391人、「中国」318人となっている。

◆教室で活動している日本語指導スタッフ等（スタッフ合計：1,376人）

「無償」で日本語指導に直接関わるスタッフが1,147人で全体の83.4%を占めている。

◆日本語指導や教室の運営で困っていること（複数回答）

「学習者が長続きしない」が40件と多く、次いで「日本語指導に関わるスタッフが不足している」が36件となっている。

日本語教育機関

◆国籍別学習者数（学習者合計：878人）

「ネパール」が226人と最も多く、次いで「ベトナム」202人となっている。

◆実施している日本語教育の内容（複数回答）

「勉強・進学で必要となる日本語の習得」が22件、「日本語能力試験合格」が20件、「日常生活で必要となる日本語の習得」が15件となっている。

日本語教師養成機関

◆日本語教師養成の目的（理念・方針）※自由記述一部抜粋

- ・日本語学習者の多様性を理解し、「日本語教育能力検定試験」合格水準を目指す。
- ・地域社会における様々な多言語・多文化の場面で必要となるコミュニケーション能力を身につける。

企業

◆外国人就業者への日本語教育・日本語学習の支援

「現在支援を行っている」が17件（54.8%）となっている。一方、「これまで支援を行ったことがない（今後行う予定もない）」は、8件（25.8%）となっている。

◆（現在支援をしている・過去支援していた場合）その内容（複数回答）

「企業内日本語教室・研修の開催」が12件、「検定試験の受験料助成」が7件となっている。

県内在住外国人

◆調査対象（紙媒体及びWEBによるアンケート調査）

県内在住外国人 408人 ※3か月未満滞在者、学齢期（16歳未満）の子ども、学生は除く

<国籍別>

ブラジル	ベトナム	中国	フィリピン	インドネシア	ペルー	ミャンマー	ネパール	タイ	その他	合計
118	68	68	47	24	23	16	4	3	37	408

◆現在日本語を学んでいますか。

「はい（学んでいる）」が293人（71.8%）、「いいえ（学んでいない）」（11.8%）が48人となっている。

◆（現在日本語を学んでいる方）何のために日本語を学んでいますか。（複数回答）

「日本での生活をスムーズにするため」が209件で最も多く、次いで「仕事・転職のため」が188件、「日本人と交流するため」が179件となっている。

◆（現在日本語を学んでいない方）今後は日本語を勉強したいと思いますか。

「はい（勉強したい）」が41人（85.4%）、「いいえ」が7人（14.6%）となっている。

◆（現在日本語を学んでいない方）どのような日本語教室だったら通ってみたいですか。（複数回答）

「無料」が27件で最も多く、次いで「家や職場から近い」が16件、「自分の都合に合わせて行ける」が12件となっている。

◆日本語が分からないために、どのようなときに困ったことがありますか。（複数回答）

「役所からの郵便物や学校のお便りなど日常生活の情報を受け取ったとき」が229件で多く、次いで「役所・郵便局・銀行などで手続きするとき」が225件、「職場内のコミュニケーション」が210件となっている。